



1: 食堂側から居間と寝室側を見る。ワンルールの大らかな空間ながら、高さ1600mmのテレビ収納によって、寝室は緩やかに仕切られている。

2: 寝室側から、居間と食堂をみる。玄関土間との間仕切りは、格子の建具で仕切られてる。

3: 外付けブラインドを下ろした際の外観。

4: 外付けブラインドを下ろした際の内観。軒の長く、耐久性の高い赤身スギ板を用いた外観と、シルバー色のブラインドの組み合わせは、経年変化も楽しみだ。スラットの調整をすることで、日射遮蔽を行ながら、お庭を眺めることが可能。冬は、スラットを調整しライトシェルフのように、日射と光を室内に取り込むことで、居住空間を明るくする。

[南面大開口]

南面は、サンゴパンECLAZ (Ug値0.528W/m<sup>2</sup>・K) を用いた造作FIXと、Uf値の優れたSmartWinを採用。Ug値が担保され、他メーカーに比べ透明度の高いガラスが特徴で、躯体性能のみではなく、外の眺め際の視界の抜け感と、特に明るさと透明感を求める冬は、空間そのもののプラスとなる大きな影響を与える。熱橋を考慮しながら設計施工された、躯体付でサッシ枠の少ない納まりは、外気温が-5度程度の際には、サッシ表面温度は19~20度前後となり、冷放射の低減と、体感温度の向上につながる。下図は鎌倉氏によるwinIsoを用いた解析結果。ブラインドボックス部や、土台廻りが熱橋の弱点の傾向となるが、木部の見込みを厚くしたり、土台廻りの納まりを工夫することで、極力熱橋を少なくした。

